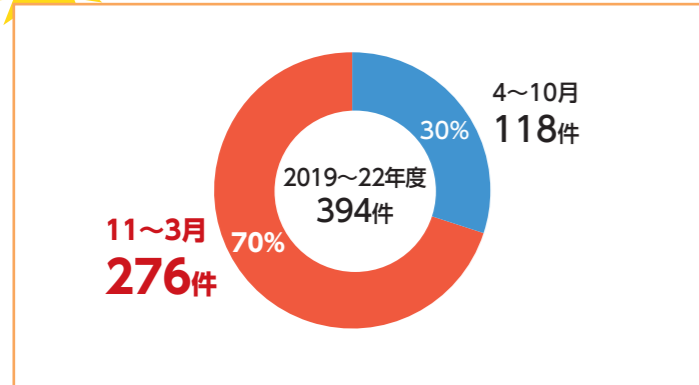
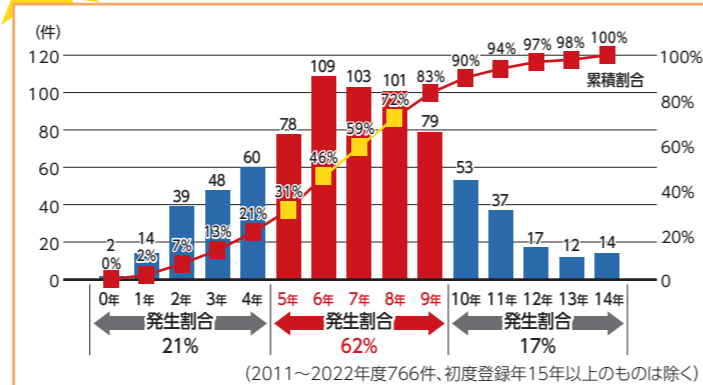


車輪脱落事故の発生状況

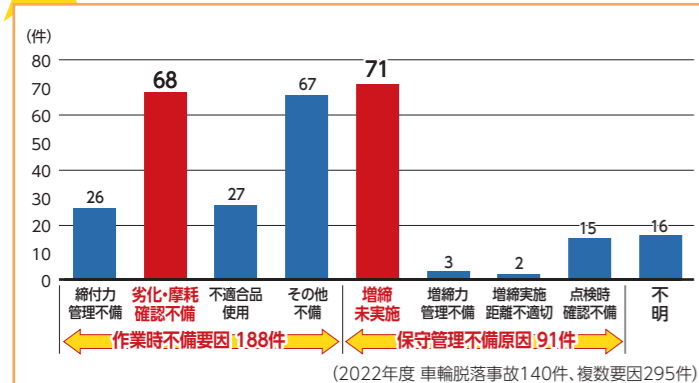
7割が冬季(11~3月)に発生



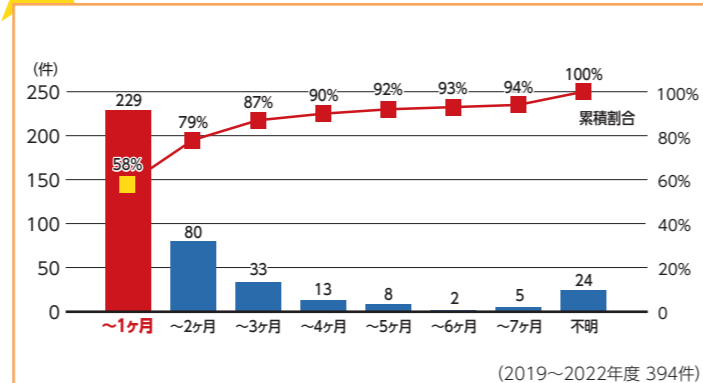
初度登録年から4~9年経過車両



主な脱落原因は劣化・摩耗確認不備と増締未実施



タイヤ交換から1ヶ月以内が6割



ホイール・ナットの緩みを見える化へ

- 規定トルクで締め付けたホイール・ナットに「マーキング」して、走行等によりホイール・ナットが緩んだ状態を可視化できます。
- 確実な日常点検の実施方法を社内で再徹底しましょう。

ホイール・ナットへのマーキング例



トルクレンチ導入助成実施中!

- 助成対象** 大型車用トルクレンチ(自立型トルクレンチ、トルクセッター型インパクトレンチを含む)
- 助成金額** 取得価格の1/2、上限3万円

最寄りのトラック協会にお問い合わせください!

適正なタイヤ交換作業の手順などの情報はこちらからご覧ください

<p>全日本トラック協会</p> <p>タイヤ交換作業の手順と方法(動画)</p> <p>https://jta.or.jp/member/anzen/datsurin_torikumi.html</p>	<p>✓日常点検項目と点検のポイント(動画)</p> <p>✓タイヤ交換時のポイント(動画)</p> <p>https://jta.or.jp/member/anzen/tenken_snow_dvd.html</p>
<p>国土交通省</p> <p>車輪脱落事故の情報</p> <p>https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha/tenkenseibi/tenken/t2/t2-1/</p>	<p>事故の恐ろしさを知って!</p> <p>大型車の車輪脱落事故(動画)</p> <p>https://www.youtube.com/watch?v=BE6-rcq81C8</p>

依然として後を絶たない!

重大事故 激増中

車輪脱落事故



大型トラックの車輪脱落は死亡事故や重大事故につながります!!

車輪脱落防止のポイント

① 適正なタイヤ交換作業



② タイヤ交換後のトルクレンチによる増し締め

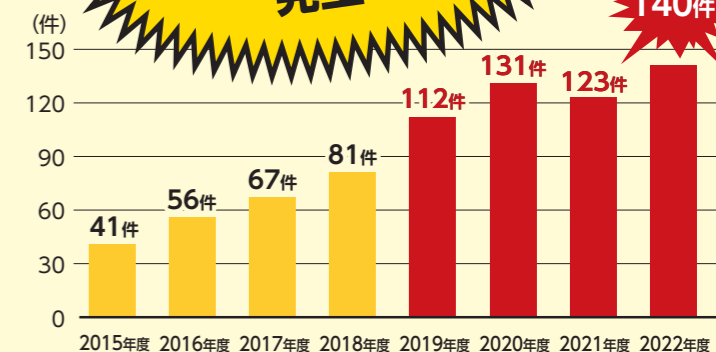


③ 日常点検、定期点検の実施



車輪脱落による人への衝撃!

近年は毎年100件以上発生!



※統計データは、「自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告」(国土交通省)による。以下、同じ。

事故事例から学ぶ！正しい交換作業で車輪脱落事故防止の徹底を！

事故事例

事故事例 1

一般道走行中、
左側後前軸のタイヤ2本が脱落し、対向車と衝突！！

推定要因

- 劣化したホイール・ナットが交換されていなかった。
- タイヤ交換後の初期なじみによりホイール・ナットの緩みが生じたが、使用者によるホイール・ナットの増し締めが実施されていなかった。

事故車両の写真



ホイール・ナットの摺動部にはガタが発生しており、ワッシャがスムーズに回転しなかった。
ホイール・ナットの摺動部に潤滑剤の塗布は確認されなかった。

事故事例 2

交差点で停止後、再発進できず確認したところ、
左側後前軸のタイヤ2本が脱落していた！！

推定要因

- ホイール・ボルトのねじ部やホイール・ナットの摺動部に、潤滑剤の塗布は確認されなかった。
- 著しいさびの発生や汚れ等の異物が付着し、ホイール・ナットの摺動部に著しいガタが発生していた。
- タイヤローテーション後の初期なじみによりホイール・ナットに緩みが生じたが、使用者によるホイール・ナットの増し締めが実施されていなかった。

事故車両の写真



ハブのディスク・ホイール当たり面には、著しいさびが発生



ホイール・ボルトのねじ部に著しいさびや汚れが付着



ディスク・ホイールの表面には著しいさびが発生



ホイール・ナットの摺動部に、潤滑剤の塗布が確認できない



ディスク・ホイールの表面やホイール・ボルト穴の周辺は、著しいさびによる損傷や剥離が進んでいた



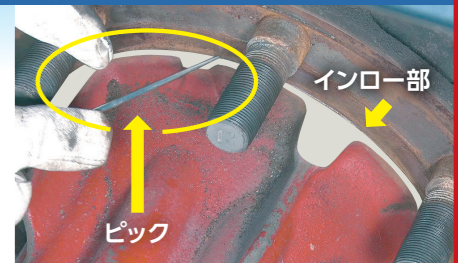
事故防止対策

手順①

ハブ面

- 点検— ハブ面の摩耗・損傷を点検。
- 清掃— ディスク・ホイール取付面やインロー部を清掃。
- 給脂— インロー部に規定のグリスを薄く塗布。

金ブラシやピックが便利



手順②

ディスク・ホイール

- 点検— 次の①～⑤の亀裂や摩耗、損傷がないかを点検。
①ホイール・ナットの当たり面 ②溶接部 ③ホイール・ボルト穴や飾り穴
④ハブへの取付面 ⑤ディスク・ホイール合わせ面
- 清掃— ホイール・ナットの当たり面とハブ取付面のさび、ゴミ、泥、追加塗装等を取り除く。

金ブラシが便利



手順③

ホイール・ボルトとホイール・ナット

- 点検— 亀裂、損傷、著しいさびがないかを点検。
ホイール・ボルトは、ねじ部につぶれ、やせ、かじり等の異状も点検。
 - 清掃— ねじ部等のさび、ゴミ、泥、追加塗装等を取り除く。
 - 給脂— エンジンオイルなどの潤滑剤をねじ部に薄く塗布。
ホイール・ナットとワッシャの間の摺動部に給脂(塗布)。
※ホイール・ボルトとの当たり面には塗布しない。
 - ワッシャの回転を確認— スムーズに回転しない場合は交換が必要。
- ホイール・ナットは、新品から一定期間(4年目安)経過した場合は入念に点検!

金ブラシが便利 潤滑剤を準備



点検・清掃後に異状があれば部品の交換が必要です!

手順④

タイヤの取り付け

- 取り付け— センタリングガイドを活用!
ホイール・ナットは、取り付けしていた元の位置のホイール・ボルトに取り付け。
- 仮締め— インパクトレンチは規定トルク以下で!
対角線順に2～3回に分けて実施。

トルクレンチを準備



トルクレンチを使って規定トルクで正しい締め付け

タイヤ交換後、50～100km 走行後にトルクレンチで増し締めを!